

アウトソースでITインフラ運用業務を効率化  
万が一のトラブルを最小限に！  
サーバー、ネットワーク管理を  
最適化するポイント



# はじめに

## 深刻化する情シスへの負担

ネットワークの高速化や仮想化、クラウド化の導入、またペーパーレスやワイヤレスを含めたりモートワークしやすい環境への変化など、企業を取り巻くIT環境は常に進化し続けています。

そのため、これらのサーバーやネットワークなどITシステムをコントロールしなければならない情報システム部門(以下情シス)といった部署が必要になりました。多くのシステムを運用・保守するなど、いまや情シスは会社を支える重要なポジションを担っています。一方で、ひとり情シスという言葉が広まるなど、その人材不足も指摘されています。

本資料では、そのような環境にあり、効率化が求められる情シスのポイントについて解説しています。

# INDEX

はじめに	1	4. 社内の状況に合わせた対応をしてくれているか	14
深刻化する情シスへの負担		5. 現状のシステムの課題をチェックし、提案してくれているか	15
<b>第1章 サーバー、ネットワークの運用保守の重要性</b>		<b>第3章 社内システムを進化させるITアウトソーシング</b>	
「万が一」があってはならないシステムの管理	4	システム環境の根本課題を解決できるようなアウトソースとは	17
今さら聞けない運用と保守の違い	5	場合によってはシステムの更新、リプレイスも検討すべき	18
システムの運用保守は、情シスの仕事の6割を占める	6	プロフェッショナルな社内SEの活用も視野に入れる	19
土日でもシステムは止まってはいけない	7	<b>おわりに</b>	20
情シスだけでの対応は困難だと自覚する	8	成功するアウトソーシングとは	
<b>第2章 システム運用・保守をアウトソースするポイント</b>		<b>企業情報</b>	
情シス業務をアウトソースしているのにうまくいかない理由	10		
1. 専門知識を持つスタッフが対応しているか	11		
2. 24時間365日の対応をしてくれているか	12		
3. 社内にノウハウが残るか	13		